NO28　平成31年2月15日

編集　発行
和歌山県北山村議会
TEL 0735-49-2331
FAX 0735-49-2207

北山村 議会だより

※現在建設中の小松携帯電話エリア整備事業の携帯アンテナ

平成30年12月定例会が開催されました

定例会の開催　村長からの議会への行政報告　P2
補正予算の審議内容　防災の知恵袋　P3
議会活動　じゃばら神社祭典、成人式、消防出初式　P4
村民登場　福祉センターのニューフェイス　P5
議会日誌　編集後記　P6

平成３０年１２月定例会　～補正予算等を審議・可決～

本定例会は１２月１９日に開催され、諸般の報告として平成３０年１２月における村長の行政報告並びに提案理由の説明があり、その後上程された議案（平成３０年度一般会計及び特別会計の補正予算に関する議案等が７件）の審議がおこなわれました。

全ての議案が原案どおり可決承認されました。

議会に報告があった行政報告の主な内容

○任期満了に伴う和歌山県知事選挙が１１月２５日執行されました。住民の皆様の御理解のおかげで、投票率は８１．９１％と県下でもっとも高くなりました。県政に対する意識の高さの表れであり、感謝いたします。

○奥瀞道路Ⅲ期工事の起工式が１１月３日に北山中学校体育館で行われ、二階俊博先生や浮島とも子先生、仁坂吉伸県知事をはじめ多くのご来賓のご出席を得て開催することができました。

式典では、国土交通省の池田道路局長より、地域の期待にこたえられるよう１日も早い完成を目指すとの心強いお言葉をいただき、二階先生からは、地元の熱心な要望の積み重ねによってこの道路が少しずつ前に進んでいる、もうひと頑張りとの言葉をいただきました。

工事については、下尾井地区から四の川橋まで２か所を２車線道路に拡幅する工事を５月末まで行います（右の写真）。１月からは小松の三叉路からも工事が開始される予定です。

工事期間中は、大型車両、工事車両の増加や片側交互通行等の規制がありますので、ご了承いただきますようお願いいたします。

○観光筏事業については、今年度、５月、６月に特別便の運行を行い、好評であったので来年度も実施するなど、集客アップにつなげていきたい。

観光センターについては、近年増加しているインバウンド（海外からのお客様）への対応として英語表記等を増やし、当村の観光拠点として一層の機能拡充を考えている。

○じゃばらの収穫量については、生産者組合の農家数が増えたことにより、今年度３８．９トンと昨年度より４．３トン増えています。村全体としては９０トンほどにとどまり昨年度より２０トン減少となります。来年度より増産にむけて取り組んでいくことを考えています。

○じゃばら加工場の整備については、現在のところ建設予定地として七色渡地区の旧森林組合から七色の里公園の一部を利用したいと考えています。加工施設については、衛生管理に係る専門の人員の確保が難しくなっており、今回の建設では搾汁までの施設とし、加工商品については、一部を外注することを基本に考えています。

○ふるさと納税については、総務省からの通知、県の指導に基づいてビールの返礼品を廃止した結果、９月以降の納税額が前年度比８０％の減額となっていますが、８月までの大幅な伸びにより、１１月末現在で９億７６００万円と前年の４分の３を達成しています。

○小松地区の携帯電話エリア整備については、 現在予定通り工事が行われており年度内に運用を開始する予定です。これにより観光筏下り、ラフティングといった観光産業の利便性の向上や、救急業務等の緊急時の対応、小松周辺での奥瀞道路Ⅲ期工事の実施においても携帯電話の不感地域の解消は大変意義のあるものと考えています。

議会注目の事業（補正予算 歳出の主なもの）

今回の定例会に上程された補正予算の中で、議会が注目する事業は、児童・生徒の熱中症対策のため小中学校の教室にエアコンを設置する事業と、大幅な減額補正となったふるさと納税促進事業について注目していきます。

小中学校へエアコン設置事業

設計監理費、工事費合計２０，１００千円

児童・生徒の熱中症予防のためのエアコンの設置事業は、国の補正予算が可決されたため、村の予算についても３月補正での予算化となった。

ふるさと納税促進事業

寄付金収入　△７億円

ふるさと寄付金については、総務省の通達、県の指導等により、寄付に対する返礼品が見直された影響で７億円の減額補正である。今後は村の特産品であるじゃばら、村の観光資源である観光筏下り、ラフティング、温泉などをＰＲして寄付を募り北山村ファンを増やしていただきたい。

定例会での補正予算審議内容

マイナンバーについて

【質問】番号制度法案対応システムの改修委託料について説明してほしい。

【答弁】番号制度の法案対応システム改修については、マイナンバーカードの文字の全国統一化のための委託料です。（各自治体で使用しているカードの文字のデザイン・フォント・文字コードなどを統一する作業です。）

（川辺住民福祉課長代理）

人権研修について

【質問】今後の人権研修の予定について伺いたい。

【答弁】村の社会教育の一環としまして、２月中旬に人権講演会を予定しています。保護者学級として実施する予定ですので、保護者、生徒、教師を対象としていますが、予定している講師は人気があり多忙な方なので、まだ未定ですが、講師の都合がつけばいい話が聞けると思いますので村民会館で全村民を対象に講演会をしたいと考えています。

（薮本教育長）

議会の防災の知恵袋　No.２

地震などのとき被害を最小限に抑えるには、自助（じじょ）・共助（きょうじょ）・公助（こうじょ）が大切といいますが、「自助」、「共助」、「公助」とはどのようなことでしょう。

1.「自助」とは、自分の身を自分の努力によって守ること。
2.「共助」とは、身近な人たちがお互いに助け合うこと。
3.「公助」とは、国、県、村などの行政機関による救助・援助。

このうち、「公助」のみの災害対策には限界があります。
地震による犠牲者の多くは、地震発生直後の建物倒壊や家具の転倒によるものです。このため、地震直後の災害から身を守るためには、自ら守る「自助」はもちろん、近隣の人々が助け合う「共助」が極めて重要です。一方、消防機関等が救出、救助、消火活動を行う「公助」は、地震直後にみなさん一人一人に対する初期の対応ができず、「公助」だけの対応ではほとんど無力です。

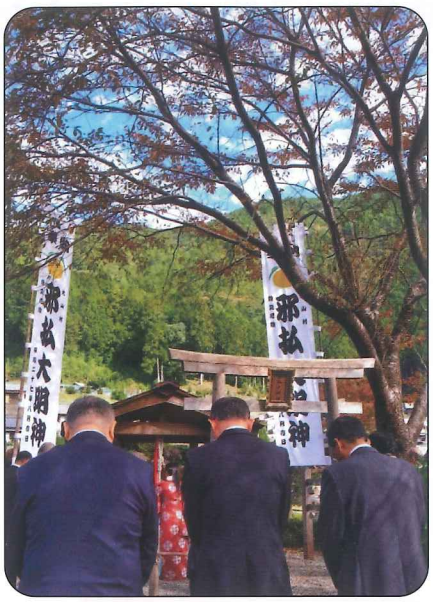
このようなことから、みなさん自身が「自分の身は自分で守る」、「自分たちの地域は自分たちで守る」、「これに足りない部分を行政機関が補う」という考えを持ち、地震に備えることが必要です。

そこで、次のようなことを普段から心がけ、いざというときに適切な行動ができるように日頃からよく考えておきましょう。① あわてず行動できるように家族と日頃から話し合おう！②家具等の転倒防止、家の耐震対策など安全を確保しよう！③非常用品の備えを万全にしよう！

じゃばら神社の祭典

昨年11月4日（日）下尾井おくとろ公園で、じゃばらの収穫祭が青年会主催で行われましたが、それに併せて、おくとろ温泉内にあるじゃばら神社で祭典が執り行われました。

祭典では大馬神社（熊野市）の神主が神事を行い、じゃばらの生産販売の向上と北山村の繁栄と住民の幸せを祈願致しました。



成人式への出席（議長）

写真は、1月3日に北山村村民会館で行われた成人式の記念撮影です。今年は対象者7名のうち3名が式典に出席しました。久保學議長は人生五訓として「おこたるな、くさるな、いばるな、おこるな、あせるな」という言葉を送りました。新成人を代表して池上智稀さんが「本日を契機として心を引き締め、新しい人生の第一歩に向けて力強く歩き出していきます。」と謝辞を述べました。

新春　消防出初式

1月4日、下尾井グランドにおいて新春恒例の消防出初式が挙行され、和歌山県知事（代理）、新宮警察署長（代理）など多くのご来賓の方々が出席して、新春の青空の下、盛大に行われました。北山村議会は議員全員が来賓として主席し、議長が祝辞を述べました。

【来賓として出席した久保議長の挨拶全文】

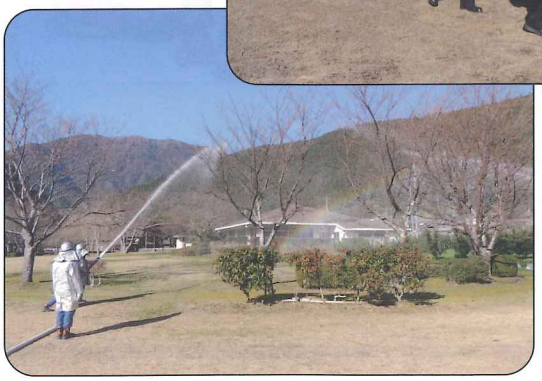
消防団員の皆様、新年あけましておめでとうございます。本日、新春の心も新たに北山村消防団の出初式が、盛大に開催されますことを心からお喜び申し上げますとともに、村議会を代表いたしまして、一言ご挨拶申し上げます。

消防団員の皆様には、日頃より、村民の生命と財産を守るため、献身的にご尽力いただたおり、心より感謝申し上げます。

さて、昨年末に平成三十年の「今年の漢字」が発表されました。平成三十年の漢字は「災」が選ばれました。災害のさい、防災のさいです。この漢字が選ばれたのは、昨年6月の大阪北部地震、7月の西日本豪雨、9月の北海道地震、そして次々と大型台風の到来、また、記録的猛暑などがあり、日本各地で起きた大規模な自然災害により、多くの方々が被災したことによるものです。この様に災害が複雑、かつ甚大化する状況にある中で、村民の生命と財産を守るため、中心的な働きをして頂くのが、消防団員の皆様でございます。

今後とも皆様方には崇高な使命の下、不測の災害に対しても、力を遺憾なく発揮されますことをご期待申し上げます。

最後になりましたが、本日、永年勤続で表彰されました方々にお祝い申し上げますとともに、消防団員の皆様のご健勝と、ますますのご活躍を御祈念申し上げ、ご挨拶といたします。



住民の皆様へのご挨拶と自己紹介
北山村社会福祉協議会　松下晃さん

こんにちは。北山村社会福祉協議会に勤めている松下と申します。昨年7月より社協でお世話になり、約半年を経過したところです。毎日、新宮市から約五〇分かけて通勤しています。

自分の仕事内容を簡単に説明しますと、介護保険制度の介護サービス利用に関する支援を主としています。

サービス事業の一旦として効率良く援助をさせていただく為には、諸制度の理解以上に、地域のことを知ることが大事だと思っています。

これから先も北山村の特性や特徴など、多くを学んで自分なりに実践力を高めていきたいと思いますので、自己研鑽はもとより、住民の皆様にはご指導とご鞭撻を賜りたく、宜しくお願い致します。

以前の勤め先から北山村で働く経緯

以前の勤め先として、新宮市熊野川行政局に所在している熊野川地域包括支援センターというところで平成二十五年から四年間お世話になりました。私自身、合併したとは言え、熊野川町のことを過疎地であること以外、無知の状況でした。仕事の形態も福祉分野ですが、対象者ありきの直接的支援でなく、現状では生活課題の少ない住民支援を主とする業務内容を任されておりました。

当初は福祉的課題に関する要望より、「電球が切れたが交換できない」や「防災無線の声の音が小さい」さらに「庭にスズメバチの巣があるので撤去してほしい」など、その内容に驚きました。そうこう対応をしているうちに、今度は「水害後の地域復興に協力してほしい」など、各地イベントの応援として協力する機会が増えていきました。

こうして、様々なことを通じて地域に出向く機会が増えることで、多くの住民と知り合うことができたと共に、次第に地域の一員として受け入れていただいたと振り返っています。

こうした地域住民からの受容は、包括支援センターでの業務にも影響し、各種事業に対するご理解・ご協力をいただけたことで、与えられた仕事として一定の成果をあげることができました。

地域のことを理解しつつ、住民目線で対応していくことが、いつしか自身の現場実践としてプラスになっていくことと確信しております。

やがて人事異動を迎え、熊野川町より新宮市に転属となりましたが、前述のとおり、対人援助を通じた過疎地独特の感受性が理想となり、北山村は類似した地域環境だと想定し、思い切って北山村社会福祉協議会の採用試験に挑んだ次第です。

今後、自分自身が大切にすべきもの

これまでの人生を振り返ると、特に若い頃は好奇心に任せて好き勝手に立ち回り、時には多くの方々に迷惑をかけたこともありました。

やがて成人となり、大人のルールも覚え始め、親の有難みもひしひしと感じるようになります。それらに気付いたのはもう何年も以前のことでありながら、今をもって両親に対して孝行はしていません。「両親が元気なうちに孝行をしておけばよかった」というお声は公私において何度も耳にしてきた言葉であります。今年こそは今回の記事掲載に免じて何卒実現させたいと思います。

もう一つは友達に関してです。同級生をはじめ、これまで気遣いすることなく横柄にでも向き合ってくれた仲間達とも、仕事の多忙さを理由に疎遠になりつつあることに最近気付きました。思い起こすと何故か心虚しい気持ちとなり、あの頃はよかったと思ってしまいます。

これでは駄目だ、昔のようにまた皆で騒いで楽しみたいとの心意気を高めつつ、素直な自分に戻れるように精進したいと思います。

最後は家族についてです。

自分は結婚した年齢も若く、周りの友人達をみても独身だらけの状況の中、長女の誕生、次女の誕生と続きました。本来は生まれてきた子供の子育てに奮闘するべきではありますが、自身が若かったこともあり、それを差し置いてでも遊びたい思いが慢心していました。

こうした気持ちは、若い頃の好奇心が末永く続いていたのか、子育てする時期が自分にはなかったかのように、あっという間に過ぎてしまい、当然のことながら子育て時の苦い思い入れや淡い感動があまりございません。

そうこうしながらも、子供の成長と平行に自分も至らない父親のまま時が過ぎ、長女の成人式を今年迎えることとなりました。成人式の当日、敢えて着物衣装を着飾った娘を少し遠くから眺めつつ、娘は立派に育った。これでよかったんだと父親不合格の私が厚かましくもこう思いました。

こうして長女の成長に続き、次女も今年の春から大学生として故郷を離れることとなりました。

これについては「親元を離れる」経験が私にも乏しく、初めての感覚を覚えます。都会で娘の引っ越しを終えて、アパートに娘一人を置いて親が田舎へ帰っていく光景を就寝前に幾度と思いつきます。その際、何とも言えない切なく悲しい気持ちに見舞われます…

まったく出来の悪い父親ですが、このような家族の成長過程の場面に立ち会い、こうして振り返りができることが今では嬉しく思えます。

これからも家族皆が成長を辿ることを信じつつ、一つひとつの場面を今以上に大切にしていきたいと思います。

最後に、これまで頼りない自分の隣にいつも居てくれた妻には心から感謝しております。

写真　右側：妻、中央：妻の母　左側：長女

議会日誌

11月の議員活動

3日　奥瀞道路Ⅲ期工事起工式（北山小中学校体育館）
4日　じゃばら神社祭典（おくとろ温泉）
8日　北山村遺族会　慰霊祭（中州・忠霊塔）
13日　和歌山県町村議会委員長・副委員長研修会（和歌山市）
19日　総務建設常任委員会・議会運営委員会（役場）
21日　全国町村議会議長会（東京都）

12月の議員活動

10日　近畿地方整備局訪問（大阪市）
11日　電源開発（株）関西支社訪問（大阪市）
13日　議会運営委員会・全員協議会（役場）
19日　12月議会定例会（役場）

1月の議員活動

3日　成人式出席（村民会館）
4日　新春消防出初式（下尾井グランド）
15日　国会議員訪問（東京都）
17日　和歌山県国保運営協議会（和歌山市）
21日　下北山村長との面談（下北山村役場）
23日　紀南河川国道事務所・県庁県土整備部への新年の挨拶（田辺・和歌山）
29日　熊野川流域対策連合会　理事会・総会（新宮市）
30日　和歌山県町村議会議長会総会（和歌山市）

今後の活動予定

2月の活動予定

4日　総務建設常任委員会（役場）
5日　近畿地方整備局訪問（大阪市）
12日　新宮広域・紀南学園議会（新宮市）
21～22日　議長・副議長・事務局長研修（白浜町）
25日　紀南環境衛生組合定例会（新宮市）

3月の活動予定

7日　北山中学校卒業式（小中学校体育館）
3月上旬　議会運営委員会・全員協議会
3月議会定例会（役場）

国会議員、国土交通省、県庁への新年の挨拶

年が明けてすぐの議会の仕事として国会議員や国、県などへの新年の挨拶回りがあります。昨年11月3日には北山村で奥瀞道路Ⅲ期工事の起工式があり、多くの関係機関の方々にお越しいただきましたので、そのお礼もかねて、挨拶に行ってきました。

紀南河川国道事務所では奥瀞道Ⅲ期工事の航空写真を見ながら今後の工事の方針についての協議を行いました。

編集後記

新春の消防出初式での議長の挨拶にもありましたが、昨年末発表された「今年の漢字」は「災」であり、昨年は非常に災害の多い年でした。特に大阪北部地震、北海道地震など大きな地震がありました。将来必ず来ると言われている南海トラフによる大地震は、20年～30年以内に発生する可能性が80％ということですし、南海・東南海地震、三連動地震などによる被害は、東日本大震災をはるかに超えると想定されています。

幸いにして北山村は津波に対する備えは必要ありませんが、家屋倒壊や家具の転倒、地震の後の火災などは頭に入れておく必要があります。まずは、自分の命を守り、家族の命を守ることを考えて、北山村の地震での死者をなくし、被害を最小限にしたいものです。

ところで皆さん、地震の前兆と言われる「地震雲」というものをご存知でしょうか？地震の2・3日前～数週間前に現れ、形状も普通の雲とは違い、広範囲に筋状、帯状になっていたりするものです。これは地震が起こる前の強い磁場によるものと言われています。

地震と地震雲などの気象現象は科学的な根拠はありませんし、単なる迷信とも言われます。しかし、多くの人が大きな地震の前に、このような普段見られない雲を見ていると思うとちょっと気にかけてもいいかと思います。

災害は、日頃の備えと、家族やご近所の協力で被害を軽減できます。地震雲のようなちょっと変わった雲を見ることで、日常で地震を意識できればと思っています。皆さんもご家族で、ご近所の方と空を見ながら防災について話してはいかがでしょうか？堅苦しい内容ですが明るく話し合って、話の雲行きが怪しくならない程度にして下さいね。

議会広報編集担当